

学校教育目標		心豊かに たくましく生きる長江っ子の育成			尾道市立長江小学校
a ミッション	○小中一貫教育校開校に向けて、小中連携教育を通じた主体性・協働性を育む教育の推進		a ビジョン	○質の高い教育を実践する学校 ○夢と志をもち、学び続ける児童を育てる学校 ○教職員が育ち、その実践によって期待と願いに応える学校	

領域	視点	b 中期経営目標 (R6)	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	自己評価			j 結果と課題の説明	学校関係者評価			改善計画	
							7月 g 達成値	h 達成度	i 評価		k 二次評価				l コメント
										イ	ロ	ハ			
児童の育成	学力	三小統合新設校に向けて「育成すべき資質・能力の三つの柱」をバランスよく育成する。	○知識及び技能の定着 ○論理的な思考に基づくものの見方・考え方の育成 ○かわり合って課題発見・解決しようとする態度の育成	児童が自身の資質・能力を自覚することができるルーブリックを活用した振り返りの場を計画的に設定するとともに、振り返りを生かして単元の改善を進める。	資質・能力の高まりを自覚できる児童の割合（ルーブリック・振り返り）	85%	73%	86%	B	・資質・能力の高まりを自覚できている児童の割合は、目標値85%に対して、73%であった。 ・学年に応じて目指す姿（資質・能力）をルーブリック（評価基準表）で明確にし、目指す姿を児童自身が具体的にイメージして振り返ることで、高まりを自覚することができた。一方でルーブリックに示された基準が児童の実態と合っていないことが課題として考えられる。 ・身に付けた資質・能力を「発揮・活用」できた児童の割合は、目標値85%に対して、88%であった。 ・生活科・総合的な学習の時間を軸に育成を目指す資質・能力と教科同士のつながりが見えるように整理したことが、有効であったと考える。これからも、児童と共有し、児童自身が自覚できるよう手立てをしていく必要がある。	○			・ルーブリックの活用は素晴らしい取組だと思う。引き続き推進し、児童が自分たちの成長を自覚できるようにしてほしい。 ・学力テストの結果からも、学力が定着していることが分かる。 ・児童の具体的な姿が見えるとより分かりやすくなると思う。	・教職員同士で各学年のルーブリックや振り返りを交流し、児童の実態に合わせ、ルーブリックの見直しを進める。 ・児童が資質能力を発揮する場面を自覚するとともに、発揮することの良さを実感できるよう、学習計画を作成し、学びのつながりを共有していく。
	生き方（規律・社会性を含む）		○人も自分も大切にできる態度の育成 ○自己を客観的に見つめ生き方について考えようとする態度の育成	長江小文化の「相手を思いやる」ことが学校生活や地域で実践できるよう、個々の目標設定と行動の改善を促す。	自他を大切にできる行動について、自ら進んで取り組んだ児童の割合（児童アンケート）	90%	92%	102%	A	・児童アンケートの結果から、自他を大切にできる行動について、進んで取り組んだ児童は、目標値90%に対して92%であった。児童会の生活目標を活用したり、月ごとに自分の生活を見直ししたりすることで意識が高まってきている。 ・自己の生き方を振り返り、自己の変容を自覚した児童の割合は、目標値85%に対して82%であった。学年が上がり、自分に求めるものが高まっていることも、目標値を達成しなかった要因として考えられる。	○			・長江小文化である「相手を思いやる」心や育むことで、学校全体が落ち着き、生徒指導対応に時間を奪われることなく職員が教育活動に励むことが出来ていると分かった。 ・学校として目指す「相手を思いやる」理想の姿が児童にも示されると良い。 ・取組の検証資料として、児童の振り返り等具体的事例を蓄積していき、変容が見えるようにしてほしい。	・引き続き生活目標等で、「自他を大切にできる行動」を、日頃から意識できるように取り組ませている。 ・自己の生き方を振り返る際に、児童に成長が見られた時には、積極的に肯定的評価を行い、自己の良い変容を自覚させたり行動の価値付けをしたりしていく。
	体力・保健		○自分の体力と健康について、主体的に高めようとする態度の育成 ○正しい知識をもって自分の体力、健康について考える態度の育成	楽しく、安全で効果的な体力向上をねらいとした体育科及び授業以外での体力づくりの推進。	体力向上について、自ら進んで取り組んだ児童の割合。（児童アンケート）	85%	86%	101%	A	・児童アンケートの結果から、外遊びなどにより、体力向上に取り組んだ児童は、目標値85%に対し86%であった。学級や児童会の声かけにより、外遊びを楽しむ児童が増えつつあるが、体を動かすことが好きな児童とそうでない児童の二極化がうかがえる。 ・生活リズムを守り、生活習慣の改善に取り組んだ児童の割合は目標値85%に対し84%であった。自分の生活の様子について、メディア利用や睡眠時間に何らかの課題があることは認識しているが、具体的な行動に移せていない児童もいることが課題である。具体的にどのように改善するのが明確にしたり、意欲を高めていったりする必要がある。	○			・コロナ禍後、免疫力の低下が心配される。体力の向上が健康に深く関係していると思う。児童の健康に関する活動を大切にしてほしい。 ・長江小児童の成長状態（身体測定の結果等）やメディアに関するアンケート結果（テレビやゲームに触れる時間等）も知りたい。	・授業内では、遊びの中で体力を向上させる活動や、体ほぐし運動を取り入れ、授業外では、朝のダイヤモンドタイムでなわとび、持久走などに取り組む。また、児童が主体となって企画する全校遊びを設定し、体を動かして遊ぶことへの関心を高める。 ・生活の実態を把握するアンケート等を実施する。アンケート結果を活用して、健康についての知識と関心を高める指導を行う。
学校への信頼獲得	対応・発信	保護者、地域、さらには教育行政の期待を把握し、それに応える。	○情報を共有し、行動を揃え、組織的な対応をする学校組織の構築 ○客観的データに基づき、PDCAサイクルで改善を進める体制の確立	家庭・地域連携、懇談会、アンケートの実施等により、保護者や地域の思いや願いを把握し、校務運営の改善充実を生かす。	保護者の信頼度・満足度（保護者アンケート）	90%	100%	111%	A	・4月、6月には参観授業と合わせて学級懇談会を行った。学級や学校の様子を保護者と共有するとともに、各学級の保護者から出てきた思い等については、教職員でも共有を行ったことが有効であったと考える。 ・運動会後の保護者アンケートの結果は、目標値90%に対して、100%であった。 ・運動会での保護者アンケートでは、「コロナ禍が明け、全学年の競技を見ることができてよかった」「準備や片付けなども子ども供達が率先してやっていて素晴らしい」という肯定的な声をいただくことができた。	○			・コドモンの使用など、情報発信が多いことが信頼度の向上に繋がっていると思う。今の取組を続けながら、どんどん変えていくことにもチャレンジしてほしい。	・学校での情報をホームページ等で家庭に提供していく。保護者との連携を密にして、組織的に思いや願いをしっかりと受け止め、一人一人のニーズに応えられるように、改善点は組織的に対応していく。

【自己評価 評価】  
A：100≦（目標達成）  
C：60≦（もう少し）<80

B：80≦（ほぼ達成）<100  
D：（できていない）<60

【外部評価】  
イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。  
ハ：わからない。